

平成21年 5 月 1 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア サ カ 理 研
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 山 田 慶 太
 (コード番号：5724)
 問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 鈴 木 忍
 TEL. 024-944-4744(代)

業績予想の修正についてのお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年2月6日に公表した平成21年9月期第2四半期累計期間(平成20年10月1日～平成21年3月31日)及び通期(平成20年10月1日～平成21年9月30日)業績予想(連結・個別)を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成21年9月期第2四半期累計期間の連結業績予想数値の修正

(平成20年10月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,196	187	200	301	121円98銭
今回発表予想(B)	4,344	40	86	194	78円84銭
増減額(B-A)	148	146	113	106	-
増減率(%)	3.5	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期第2四半期累計)	7,039	471	447	232	113円50銭

2. 平成21年9月期通期の連結業績予想数値の修正

(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	7,816	257	292	403	160円30銭
今回発表予想(B)	8,047	23	52	170	67円69銭
増減額(B-A)	230	280	240	233	-
増減率(%)	2.9	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期)	13,694	849	783	405	197円78銭

3. 平成21年9月期第2四半期累計期間の個別業績予想数値の修正

(平成20年10月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,196	185	197	295	119円81銭
今回発表予想(B)	4,344	37	83	186	75円57銭
増減額(B-A)	148	148	114	109	-
増減率(%)	3.5	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期第2四半期累計)	7,039	473	450	235	114円88銭

4. 平成21年9月期通期の個別業績予想数値の修正

(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	7,816	256	289	398	158円19銭
今回発表予想(B)	8,047	25	48	162	64円50銭
増減額(B-A)	230	281	241	235	-
増減率(%)	2.9	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期)	13,694	842	777	416	203円07銭

5. 修正の理由

下記に修正の理由を記載いたしますが、連結通期、個別通期、連結第2四半期累計、個別第2四半期累計ともに同様の理由によりますので、まとめて記載いたします。

世界規模の不況に対し各国で緊急経済対策を打ち上げ、国内においても15兆円規模の対策を打ち出しておりますが、景気の底打ち感は見られるものの、いまだ回復には至っておりません。一方、当社主力製品である金を始めとする貴金属や銅の市況については円安の影響もあり、一時の安値圏を脱し、徐々に回復してまいりました。当社の主要なお客様が属する電子部品・デバイス分野の景況は依然低迷しておりますが、貴金属や銅の市況の回復の影響が大きく、業績予測の修正をさせていただきますので、その主要要因をセグメント毎にご説明いたします。

・売上高について

(1) 貴金属事業

金価格について

前回修正時点の金価格は、810ドルから920ドル/トロイオンスで推移しており、急激な円高の影響を受け、円ベースでは大きく値を下げ、当社は保守的に2,350円/gで設定しておりました。しかしながら、その後金の価格は上昇し、直近1ヶ月間において、870ドルから940ドル/トロイオンスで推移しております。これを当社が想定する為替レートで換算すると円貨ベースでは2,657円/gから2,871円/gと

なります。当社は、金の価格については、当期後半ではこの水準にて推移すると見込み、金の価格を2,700円/gと想定し、業績予想の修正を行うことといたしました。この修正を含む貴金属相場の変動による通期業績見通しへの影響額は、売上高で569百万円の増加となります。

業界の動向について

当社のお客様が属する電子部品デバイス分野の生産動向は、当第2四半期において当社の想定を超えて下落し、特に主要なお客様が属する水晶業界においては、日本水晶デバイス工業会の発表によれば、当第2四半期間の生産数量は前年同期比で約41%の減少となっております。現状では水晶業界の落ち込みはほぼ底を打ったものの、その落ち込みは当社の想定以上となっており、今後の回復についても当初想定していたよりもやや遅れるものと判断し、当期後半において、金の販売数量の減少を見込みました。この減少等を含む、貴金属相場変動以外による業績修正への影響額は、売上高で362百万円の減少となります。

(2) 環境事業

銅価格について

前回修正時点における銅価格につきましては、300千円/t台で推移しておりましたので、当社はその想定価格を300千円/tと設定しておりました。その後、LME(London Metal Exchange)の銅在庫は徐々に増加しておりましたが、3月頃より在庫調整も一巡し減少に転じたことや、中国のさらなる需要回復への期待等により、現在では500千円/tにまで回復しております。しかしながら、この上昇には投機的な動きによる影響もあるとの見方があることや、為替が今後円高に振れる可能性を考慮し、銅価格を400千円/tと設定いたしました。通期における、銅価格の変動による業績修正への影響額は、売上高で35百万円の増加となります。

業界の動向について

当社のお客様である北関東、東北エリアのプリント基板業界については、電子部品、自動車業界の低迷により相当の打撃を受け、当社の主力製品である塩化第二鉄液のエッチング用途の販売については苦戦を強いられておりますが、水処理用途の塩化第二鉄液の販売は順調に推移し、塩化第二鉄液全体の販売としては増加するものと見込んでおります。主要な製品のひとつである銅ペレットの販売や、新製品である水処理用ろ過材の販売については、経済危機による業界の低迷等により、通期において減少を見込んでおり、環境事業全体における、通期の業績修正への銅価格以外の数量等による影響額は、売上高で15百万円の減少となります。

以上のことから連結売上高については第2四半期累計で4,344百万円、通期で8,047百万円となる見込みです。

利益について

利益につきましては、上述の貴金属相場の上昇を主要因とする売上高の増加の影響や、この危機的な状況に対応するため推進している、生産の合理化、人件費の削減、その他全般的なコスト削減等の諸施策が順調に進んでいること等により、損失額を第2四半期累計で146百万円、通期で280百万円削減し、連結営業損益は第2四半期累計で40百万円の営業損失、通期においては23百万円の営業利益と黒字に転化し、連結経常損失は第2四半期累計で86百万円、通期で52百万円となる見込みです。連結当期純損失につきましては、前回公表しておりますとおり繰延税金資産の取り崩しが発生することから、第2四半

期累計で194百万円、通期で170百万円となる見込みであります。

なお、個別業績予想の修正につきましては連結業績予想の修正と同様の理由によるものであります。

今後とも厳しい事業環境が続くものと想定されますが、全社一丸となって利益確保に努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上